



## ○「掛合中学生徒さんの学校訪問」

⇒講話スライドの一部

9月14日に掛合中学生徒さんが三刀屋高校を訪問してくれました。校長室だよりを読んだのでいろいろ話を聞きたいというものでした。関心を寄せてもらったことに感謝感謝です。講話の中で使ったスライドの一部が、山形県の山寺の風景です。

ここはどこでしょうか？



この風景から「閑さや 岩に沁み入る 蝉の声」という句がつかれる感性のすごさの話をしました。先日聞いた講演の「これからの社会で必要な武器の一つが感性だと思っています。」という話の紹介で、このスライドを使用しました。

講話は、掛合中学生徒さんから事前にいただいた 11 個の質問について答える形で進めました。とても真剣に約 40 分間講話を聞いてくれるので、申し訳ないと思いつつも5分も延長してしまいました。

質問の一つに「貴校として地方創生、島根(雲南)の形成者育成の視点での取り組みを教えてください。」というのがありました。

講話では「地域に関わる学習を通して、あたりまえのことがあたりまえでないことに気づき、島根や雲南に、そして働くことに誇りをもつようになっていくと考えます。まずは気づける感性を磨くことが大事。だから授業や探究学習を大切にしたい。また、こうした学習を深めていくことは、地域貢献にもつながっていくので、JRC部を中心にボランティア活動に参加する生徒が増えつつあります。地域の方々にその活動や活躍を応援してもらったり、認めてもらったりする中で、自信をつけ、コミュニケーション力だけでなく、主体性が養われていく生徒も多くなります。」というような話をしました。このことは分校生徒にも大いに言えることです。

中国の王羲之の言葉に、「非人不佞」というのがあります。私は、「人権意識の希薄な人にふるまいを語っても意味がない」と解釈しています。これになぞらえて、「あたりまえのことをあたりまえとしか見えない人、あたりまえでないことを有り難いことだと考えて感謝ができないような人に感性を磨けない」と考えています。

学校で、報告・連絡・相談を徹底することは大事であり、あたりまえのこととしがちですが、報告しなさい、相談しなさい、それがあたりまえの姿勢だと逆にそれが徹底しないというようなことも講話で話しました。報告・連絡してくれてありがとう。相談してくれてありがとうという気持ちを持つことが、徹底にもつながるということです。

この講話の最後に、先日聞いた講演から、自己肯定感を高めるための話をして終わりました。「やる気を出すために、人との比較でなく自分との比較をすること。クラスで何番でなく、自分が前よりどれだけ成績が上がったかの視点が大事。私はマラソンを通してそれを特に実感しています。」

今年の12月、久しぶりに国宝松江城マラソンがあります。第1回目の目標は完走。へろへろになりながら制限時間内になんとかゴールできました。第2回目の目標はサブ5(42.195kmを5時間以内で完走すること)。なんとかぎりぎり達成できました。全体順位や年代別順位で見たら全然だめですが、目標を達成できたことに自信がつかれました。年齢をどんどん重ねていますが、今回の目標はサブ4.5として努力を重ねたいと思います。